



祝
400 万人

■ オープン以来の来場者が大台に、記念すべき節目を達成
道の駅高田松原の来場者数が 400 万人を超えました



記念のパネルを手にする藤原さん一家と佐々木市長

8月5日(水)、気仙町の道の駅高田松原の来場者数が、累計400万人に達しました。

令和元年9月にオープンした同駅は、令和6年10月に累計300万人を達成。それから1年10カ月後となる今回、記念すべき400万人目の来場者となったのは、高田松原海水浴場に花巻市から4人で訪れていた藤原さん一家。記念品として、同駅で販売されている本市のブランド米「たかたのゆめ」などが贈られました。

400万人目となった藤原和博さんは「400万人目になるとは思っていなかったののでびっくりした。これからも足を運んでいきたい」と笑顔で話していました。

つなげ、
ラリー

■ 息を合わせ、心を重ねる、笑顔でつながるラリー
フレスコボールリクゼンタカタカップ 2026

フレスコボール公式戦「リクゼンタカタカップ2026」が、高田松原海水浴場で8月8日(土)、9日(日)の2日間にわたり開催され、85組が出場しました。

フレスコボールは、ラケットとボールを使い、ペアでお互いに打ちやすいボールを返してラリーを続けるブラジル発祥のスポーツ。本市での開催が5年連続となる同大会は、両日ともに天候に恵まれ、選手たちは日頃の練習の成果を存分に発揮していました。



息を合わせてラリーを交わす選手

出場した二階堂千里さん(岩手大2年)は「目標の5分間いっぱいプレーすることができた。今日初めてペアを組んだのですが、楽しくプレーできてよかった」と笑顔を見せました。ペアを組んだ大田桃歌さん(気仙沼市)は「ビーチでのプレーは初めてだったので大変でしたが、打ち返ししやすいボールを返してくれて助かった」と振り返っていました。

未来へ
繋ぐ絆

■ 名古屋市の中学生と交流を深める
陸前高田市・名古屋市絆交流

8月17日(月)から19日(水)までの3日間、名古屋市の中学生37人が本市を訪れ、市内両中学校の代表生徒15人と交流を深めました。



市内中学生の案内で祈念公園を見学しました

本交流は、東日本大震災をきっかけに両市の教育委員会が締結した「絆協定」に基づく取り組みで、本年度で14年目を迎えました。生徒たちは、本交流のテーマソングである「未来への翼」を合唱したほか、市内の中学生による案内で東日本大震災津波復興祈念公園を見学するなどして親睦を深めました。

名古屋市から参加した横山明音さん(富田中2年)は、「祈念公園を案内してもらい、震災の規模の大きさを実感した。今回交流した中学生がこちらに来たときには、今度は私たちが名古屋を案内したい」と話していました。

家族で
いっしょに

■ 生きものの記録を未来に残す標本作製に挑戦
図書館で生きもの博士をめざせ！2026 ～昆虫の標本をつくってみよう～

昆虫の標本作製の体験会が、7月25日(土)にアバッセたかたパブリックスペースで開催され、11組の家族22人がカブトムシやクワガタムシの標本を作製しました。



真剣に標本作製する子ども

本体験会は市立図書館が企画。体験会では、マチ針を使って体や足を固定する展足の方法やどこにどんな生きものが住んでいたか記録を残す標本の重要性を説明しました。参加した家族は一緒になって一生懸命、丁寧に昆虫の形を整えていました。

カブトムシの標本作製した臼井航太郎さん(広田小2年)は「初めて標本を作ってみて難しかったけど楽しかった。今度はクワガタムシで作ってみたい」と意欲を見せていました。

自然を
満喫

■ 仲間とともに共同生活、自ら考える力を学ぶ
大自然と触れ合う「陸前高田ワタミ自然学校」

首都圏の子どもたちが本市の自然と触れ合う「陸前高田ワタミ自然学校」が、7月30日(休)から8月2日(日)までの4日間開催され、36人の子どもたちが参加しました。

ワタミ自然学校は、ワタミ株式会社が主催し、自然や仲間との共同生活を通じて、自ら考え行動する力を育む体験学習プログラム。同プログラムでは、ワタミオーガニックランド内で同社の渡邊美樹代表



出来立てのハンバーガーを堪能する参加者

取締役会長兼社長とともに植樹活動を実施したほか、昼食のハンバーガー作りや野菜の収穫を体験しました。その他にも、高田松原津波復興祈念公園などを見学して津波の脅威や教訓を学んだほか、夜には星空観察を行うなど、子どもたちは自然に深く触れる時間を過ごしました。

千葉県から参加した岡田直大さん(6年)は「本格的なハンバーガーでおいしかった。いっぱい取れた野菜は家族と一緒に楽しみたい」と笑顔で話していました。

パネル
を活用

■ 太陽光パネルの下で育った記念すべき初収穫
ブルーベリー収穫体験イベントを開催

陸前高田しみんエネルギー株式会社が主催するブルーベリーの収穫イベントが、8月2日(日)、ワタミオーガニックランドで開催され、25人が参加しました。

本イベントは、同社とワタミファーム陸前高田株式会社が取り組む営農「強化」型太陽光発電により栽培されたブルーベリーを収穫するもの。

当日は、参加者がパネルの下で育ったブルーベリーの記念すべき初収穫の喜びを分かち合いました。

参加した畑中葵葉さん(広田小1年)は「ここでブルーベリーを栽培していることを初めて知った。甘くておいしかった」と嬉しそうに話していました。

※営農「強化」型太陽光発電…太陽光パネルを発電の他にも、パネルの下で栽培する農作物の雨よけなどに活用する陸前高田モデル



大きく育ったブルーベリーの収穫を楽しみました